

日系農業者・団体データベース一覧

No	国	州・県	市	団体名(日本語)	団体名(原語)	略称	農産物(活動内容)
1	ブラジル	パラ州	トメアス	トメアス農協	Cooperativa Agrícola Mista de Tomé-Açu	CAMTA	アサイー、アセロラ、カカオ、クプアス、胡椒
2	ブラジル	パラ州	メディシランディア	トランスアマゾニカ農協	Cooperativa Agroindustrial da Transamazônica	COOPATRANS	カカオ
3	ブラジル	パラ州	サンタイザバルドパラ	サンタイザベル・サントアントニオダウア組合	Sindicato dos Produtores Rurais de Santa Izabel do Pará e Santo Antônio do Tauá	SINPRIZ	養鶏、鶏卵、バナナ、アサイー、デンドヤシ
4	ブラジル	ペルナンブコ州	ペトロリーナ	ノバリアンサ農協	Cooperativa Agrícola Nova Aliança	COANA	ぶどう
5	ブラジル	ミナスジェライス州	トゥルボランディア	スルミナス農協	Cooperativa Agrícola Sul de Minas	CASM	すもも、アテモヤ、アボカド、デコボン、ドラゴンフルーツ、柿
6	ブラジル	ミナスジェライス州	サンゴタルド	セラードブラジレイロ農協	Cooperativa de Agronegócios do Cerrado Brasileiro Ltda	Coopacer	にんにく、にんじん、大豆、アボカド、コーヒー
7	ブラジル	ミナスジェライス州	サンゴタルド	サンゴタルド地域協議会	Conselho da Região de São Gotardo	CRSG	にんじん、アボカド、にんにく、じゃがいも
8	ブラジル	ミナスジェライス州	サンゴタルド	アルトパラナイーバ農協	Cooperativa Agropecuária do Alto Paranaíba	COOPADAP	にんじん、にんにく、とうもろこし、大豆、コーヒー
9	ブラジル	マツグロソッドスル州	カンボグランデ	バルゼアアレグレ農協	Cooperativa Agrícola Mista da Várzea Alegre	CAMVA	鶏卵、うずら卵、レモン、ドラゴンフルーツ
10	ブラジル	マツグロソッドスル州	ナビライ	スルマツグロセンセ農協	Cooperativa Agrícola Sul MatoGrossense	Copasul	大豆、とうもろこし、キャッサバ、綿
11	ブラジル	サンパウロ州	イビウナ	イビウナ農協	Cooperativa Agropecuária de Ibiúna	CAISP	野菜(リーフレタス、ケール、白菜、レタス、キャベツ)
12	ブラジル	サンパウロ州	モジダスクレーゼス	モジダスクレーゼス農村組合	Sindicato Rural de Mogi das Cruzes	SRMC	レタス、きのこ、柿、蘭、アテモヤ
13	ブラジル	サンパウロ州	サンパウロ	南伯グランデサンパウロ農協	Cooperativa Agrícola Sul Brasil da Grande São Paulo	CSBGSP	柿、すもも、トマト、ピーマン、葉野菜
14	ブラジル	サンパウロ州	ピラールドスル	APPC 農協/サンパウロ州柿生産者組合	Cooperativa Agroindustrial APPC / Associação Paulista Produtores de Caqui	APPC	ぶどう、デコボン、アテモヤ、柿
15	ブラジル	サンパウロ州	ピラールドスル	南伯ピラールドスル農協	Cooperativa Agrícola Sulbrasil Pilar do Sul		ぶどう、アテモヤ、柿、野菜
16	ブラジル	サンパウロ州	サンミゲールアルカンジョ	南伯サンミゲールアルカンジョ農協	Cooperativa Agrícola Sul Brasil de São Miguel Arcanjo	CASBSMA	ぶどう、びわ、柿、野菜(ハウス栽培)、核果類(桃など)
17	ブラジル	サンパウロ州	レジストロ	レジストロ日伯文化協会	Associação Cultural Nipo-Brasileira de Registro		紅茶及び緑茶、餅米、いぐさ、ジュサラパルブ
18	ブラジル	サンパウロ州	カッポンボニート	カッポンボニート農協	Cooperativa Agrícola de Capão Bonito	CACB	大豆、とうもろこし、小麦、フェイジョン豆、じゃがいも、レモン、柿、りんご、ぶどう
19	ブラジル	サンパウロ州	グアタバラ	グアタバラ農協	Cooperativa Agrícola de Guataporã	COAG	鶏卵、養鶏用飼料
20	ブラジル	サンパウロ州	グアタバラ	JATAK 農業技術普及交流センター	Instituto de Pesquisa Técnicas e Difusão Agropecuária da JATAK	IPDA-JATAK	大豆、卵、ライチ、ドラゴンフルーツ、野菜
21	ブラジル	サンパウロ州	バストス	バストス地域鶏卵生産者協会	Associação dos Produtores de Ovos de Bastos e Região	APROBARE	鶏卵、肉用牛、蜂蜜、サウキビ、アボカド、ユーカリ・マホガニー
22	ブラジル	サンパウロ州	ミランドポリス	弓場農場	Associação Comunidade Yuba	Yuba	グアバ、マンゴー(パルメール)、おくら、椎茸、かぼちゃ
23	ブラジル	サンパウロ州	サンパウロ	ブラジル農協婦人部連合会	Associação Dos Departamentos De Senhoras Cooperativistas	ADESC	市場での農産物・加工品・弁当販売
24	ブラジル	パラナ州	カストロ	ユニオンカストレンセ農協	Cooperativa Agrícola União Castrense	UNICASTRO	大豆、とうもろこし、小麦、じゃがいも、きのこ
25	ブラジル	パラナ州	ポンタグロッサ	ポンタグロッセンセ農協	Cooperativa Agrícola Pontagrossense	Cooperponta	大豆、とうもろこし、小麦、オート麦、フェイジョン豆
26	ブラジル	パラナ州	ロンドリーナ	インテグラダ農協	Integrada Cooperativa Agroindustrial		大豆、とうもろこし、小麦、コーヒー、オレンジ
27	ブラジル	パラナ州	ピトゥルナ	ピトゥルナマテ茶協会	Abem - Associação Biturunense da Erva Mate	ABEM	マテ茶
28	ブラジル	サンタカタリーナ州	サンジョアキン	サンジョアキン農協	Cooperativa Agrícola de São Joaquim	SANJO	りんご、ブルーベリー、ぶどう、フェイジョア
29	ブラジル	サンタカタリーナ州	フレイロジェリオ	ラーモス果樹生産者地域連合	União Regional dos Produtores de Fruta	UNIFRUTA	にんにく、梨、大豆、桃、とうもろこし
30	アルゼンチン	ミシオネス州	ハルディンアメリカ	ハルディンアメリカ生産者組合	Cooperativa Yerbatera de Jardim América Ltda.		マテ茶、キャッサバ、きゅうり、ミニコーン、パパイア
31	アルゼンチン	ブエノスアイレス州	ラプラタ	メルコフロール花卉生産者組合	Cooperativa de Productores de Flores y Plantas Mercoflor	Mercoflor	切花、鉢物
32	アルゼンチン	ブエノスアイレス州	ブエノスアイレス	エコフロール花卉農協	Establecimientos Cooperativos Florícolas	Ecoflor	切花、観葉植物・花の苗

33	パラグアイ	アマンバイ県	ペドロファンカバレイロ	アマンバイ農協	Cooperativa Amambay Agrícola		大豆、とうもろこし
34	パラグアイ	イタプア県	ラパス	ラパス農協	Cooperativa La Paz Agrícola		大豆、小麦、とうもろこし、ひまわり
35	パラグアイ	イタプア県	ピラボ	ピラボ農協	Cooperativa Pirapó Agrícola		大豆、小麦、なたね、とうもろこし、もろこし
36	パラグアイ	パラグアリ県	ラコルメナ	コルメナアスンセーナ農協	Cooperativa Agro-Industrial Colmena Asuncena	CAICA	トマト、ピーマン、レモン、メロン、ぶどう
37	パラグアイ	アルトパラナ県	イグアス	イグアス農協	Cooperativa Yguazu Agrícola		大豆、とうもろこし、小麦、マカダミアナッツ、肉用牛
38	パラグアイ	アルトパラナ県	イグアス	パラグアイ農牧総合試験場	Fundación Nikkei CETAPAR	CETAPAR	栽培試験、品種改良
39	パラグアイ	アスンシオン市	フェルナンドデラモラ	パラグアイ日系農協中央会	Central Cooperativa Nikkei Agrícola	Chuokai	農協行政手続き、融資、指導・研修、パラグアイ農牧総合試験場(CETAPAR)の運営
40	ボリビア	サンタクルス県	オキナワ	コロニアオキナワ農協	Cooperativa Agropecuaria Integral Colonias Okinawa	CAICO	大豆、小麦、米、とうもろこし、ソルガム
41	ボリビア	サンタクルス県	サンファン	サンファン農協	Cooperativa Agropecuaria Integral San Juan de Yapacani	CAISY	卵、米、大豆、とうもろこし、マカダミアナッツ
42	ペルー	リマ県	ウアラル	エスキベル農畜産物生産者協会	Asociación de Productores Agropecuarios de Esquivel	APAE	飼料用とうもろこし、ニンニク、にんじん、ジャガイモ、アーティチョーク
43	ペルー	リマ県	カニエテ	ペルー日系人協会カニエテ	Asociación Peruano Japonesa de Cañete	APJ Cañete	ぶどう、みかん、アスパラガス、ブルーベリー
44	コロンビア	バーレデルカウカ州	カリ	フルーツアンデス社	Sociedad de Comercialización Internacional Fruit Andes S.A.S.	Fruit Andes	グルバ(紫パッションフルーツ)、パイナップル、ハス・アボカド
45	メキシコ	チアパス州	アカコヤグア	イアグロス社	Impulso Agroalimentario Sustentable SPR de R.L.	iAgroS	マンゴー、ランブータン、マンゴスチン、コーヒー、 카카오

トメアス農協の例

ブラジル 南
パラ州
トメアス市

①トメアス農協 CAMTA

両者を繋いだ歴史・設備・特産性の CAMTA プラン

ロゴ 施設 位置

図1: 2021/12/10

[1] 組織の概要

団体名	トメアス総合農業協同組合 CAMTA Cooperativa Agrícola Mista de Tomé-Açu
代表者	Alberto Keri Osipova
組合員人数	172 人
設立年	1945 年
組織紹介	CAMTA は 1992 年より取り組んでいる持続可能な農業「アグロエコシステム」を理念、世界的に定まっています。トメアスアグロエコシステム「SAFTA」は最先端技術と環境との持続可能な農業を組み合わせ、短期・中期・長期的な利益を生み、トメアスの農業家や地域の食の安全を保障しています。同じように CAMTA は自然農法や環境保全、社会貢献などに重きを置いています。また、各々の自然資源と経済的リターン(利益)を得ています。日本企業との協力を得て開発された果物バリエーション工場の CAMTA の特色です。ここではバリエーション生産量は年間約 500t を誇ります。
住所	Avenida Uberlândia Mendes, 210, Bairro Centro, Tomé-Açu, Pará, Brasil
電話番号	+55 91 99144-6166
E-mail	www.tomelasma@camta.com.br
ウェブサイト	www.camta.com.br

[2] 組織の活動

2-1 主要生産物

作物	生産面積	生産量	データ年
(1) カカオ豆	500 ha	500 t	2021
(2) アサイー	500 ha	2,000 t	2021
(3) 胡椒	300 ha	450 t	2021
(4) ドラゴンフルーツ	140 ha	800 t	2021
(5) クプアス	500 ha	2,000 t	2021

2-2 栽培カレンダー

作物	植付/剪定(1)	収穫(1)	植付/剪定(2)	収穫(2)
(1) カカオ豆	1月・4月	5月	9月・11月	9月
(2) アサイー	1月・4月	11月	1月・2月	4月
(3) 胡椒	1月・4月	7月	1月・2月	7月
(4) ドラゴンフルーツ	11月・1月	1月	6月・11月	7月
(5) クプアス	1月・4月	2月	1月・4月	2月

2-3 農産物・加工品の輸出

作物・製品	輸出先(国)	量
(1) 果物・バリエーション	日本、フランス領ギアナ、ドイツ、スリナム、イスラエル	440 t
(2) カカオ豆	日本	450 t
(3) 胡椒	アルゼンチン、ドイツ、日本	350 t

2-4 農業生産以外の活動

(1)	Tópico	Conteúdo
1	農業資材・機械	果物バリエーション(アセロラ、アサイー、パイナップル、カシュー、クプアス、グアバ、サワーソップ、マンゴー、パッションフルーツ、ドラゴンフルーツ、ムルシ、タペレバ)

*1: ムルシ樹は、アセロラと同じ系統の樹種で、果実がオレンジ色で、種はほとんど黒い。果実の大きい黄色い果物がなる。
*2: マンゴーの品種にありブラジルに古くからあるフルーツで、アマゾン・スイスとして知られている。

[3] 日本企業とのビジネス

3-1 日本企業との取引状況

CAMTA は果物バリエーション、胡椒、カカオアーモンドの取引を行っています。20 年以上も日本市場と取引を行っており、日本の行政や民間企業からの援助や協力のもと高品質な商品の生産に取り組んでいます。

3-2 ニーズのある分野・課題

(1)	分野	対象	課題	解決策
(1)	認証	果物バリエーション	国際市場での競争力を上げ、より高品質で安全性の高い商品を生産	研修の導入、生産工程の資料化や効率化、商品トレーサビリティの構築など技術への投資
(2)	保管	果物バリエーション	冷凍庫の最大保管量に達してしまつた	商品の冷凍保存用エリアの最適化と増設
(3)	加工(カット・乾燥)	果物バリエーション	果物バリエーションの最大パッキング量	より高品質な商品製造のため生産増加を効率的に可能にする新しい包装機器の導入に投資
(4)	種苗・品種	カカオ	国際市場での需要に 대응するため生産量を増加	SAFTA で導入しているカカオ樹を病(Monilophthora perniciosa)に強くなり生産性の高いものとの交換に投資
(5)	環境対策	有機ミネラル肥料	環境への負担と化学農薬使用量の削減 現在のシステムよりも環境への負担が少ない処理方法での廃棄	農業生産によって生み出される廃棄物の有効活用や化学農薬の使用量の削減によって環境負担を減らすため、有機ミネラル肥料の生産技術導入に投資。 水処理センターの改善・増設プロジェクトへの投資。

3-3 関心のある技術・製品

工場生産をリアルタイムで監視・管理
インダストリー4.0の導入により生産物の品質向上やコスト削減
農業機械は最先端システムの導入

3-4 日本企業への期待

CAMTA はアグロエコシステム分野の研究・開発関係と連携を求めている。トメアスアグロエコシステム「SAFTA」の認知を拡大したいと思っている。商業的パートナーシップや環境保全・持続可能な生産等に関心のある投資家や企業の協力を求めている。果物バリエーションの需要は拡大している。SAFTA から出される高品質な果物の販売を求めている。



6. 農林水産業・食産業分野における戦略的ビジネス環境の整備

日本のアグリ・フードテック関連の技術・ノウハウを活用したグローバル・フードバリューチェーン（GFVC）の構築を通じ、我が国食産業の海外展開を推進し、海外需要の獲得を目指すとともに、我が国の農林水産物・食品の輸出促進を図る。

(1) GFVC 中南米部会（中南米への食産業展開・輸出促進セミナー）

「GFVC 中南米部会」に相当する会議として「中南米への食産業展開・輸出促進セミナー」という名称で実施し、我が国食産業の中南米諸国への事業展開を推進し、農林水産物・食品の輸出促進を図るため、進出企業の事例や日本食普及活動の取組等を紹介した。

1) 基本情報

日程	令和4年3月4日（金）8:00-10:00
場所	オンライン（Zoom） （農林水産省は本館4階イコルムA）
参加者	地方自治体7名、企業78名、大学・団体8名、中南米在外公館7名、政府関係機関38名 計138名
内容	我が国食産業の中南米諸国への事業展開を推進し、我が国の農林水産物・食品の輸出促進を図るため、進出企業の事例や日本食普及活動の取組等を紹介する。 1. 中南米の情勢等 2. 農林水産・食品分野における取組状況 3. 中南米での農業、日本食普及の現状 4. 現地での輸出促進、日本食普及の取組
言語	日本語・スペイン語同時通訳



農林水産省会場の様子



セミナーの様子

2) 参加者

地方自治体(7)	茨城県(1)、静岡県(2)、滋賀県(1)、兵庫県(2)、名古屋市(1)
企業(78)	AgroArgentinaJapon (1)、AOTS do Brasil(1)、BOX トレーディング(1)、Inversiones La Esperanza (Chile) (1)、Itochu Chile(1)、JTB(2)、Kanematsu America do Sul(1)、K'S K s.p. (1)、MATCHA KAORI JAPAN(1)、MK トレーディング(1)、NAX JAPAN(1)、NH Foods Chile(1)、OVOP Argentina(1)、Ponte Pronto Publicidade(1)、Projec'Tao Japan(1)、Rabbit Farm(1)、Sakata Seed Chile, S.A. (1)、SakuraJapanPy(1)、Tadano Chile SpA(1)、Toray do Brasil (1)、アールディーアイ(1)、アイ・シー・ネット(1)、アセンティア・ホールディングス(1)、アディルザス(1)、アレナビオ(1)、伊藤忠商事(1)、いまる井川商店(1)、ヴォークス・トレーディング(1)、オクトリンク(1)、オリエンタルコンサルタンツグローバル(2)、海外進出駐在代行(1)、かいはつまネジメント・コンサルティング(1)、カネイー言製茶(1)、川崎汽船チリ(1)、気象工学研究所(1)、キッコーマン(1)、キッコーマン・ド・ブラジル社(2)、木徳神糧(1)、宏大(1)、国分グループ (1)、佐々木製茶(2)、サタケ(1)、システムデザイン(1)、シヨクレン北海道(1)、住友商事(2)、杉本商店(1)、鈴木製館所(1)、双日(1)、ダイキン工業(1)、テラ行政書士事務所(1)、日本経済新聞社サンパウロ支局(1)、日本食普及の親善大使アルゼンチン(1)、ハウス食品(2)、日立南米社(1)、フーズアーキテクト(1)、富士色素(1)、ブラジルベンチャーキャピタル(1)、ブラジルヤクルト商工(1)、伯国三菱商事(1)、峯樹木園(1)、ホク

	サン交易(1)、モトックス(1)、丸紅アルゼンチン会社(1)、松田産業(1)、三谷ビジネスパートナーズ(1)、前川総合研究所(1)、徳倉建設(1)、日本開発サービス(2)、日本通運(2)、緑伝(1)
大学・団体(8)	食品等流通合理化促進機構(1)、拓殖大学(1)、中央大学(1)、日本ブラジル中央協会(1)、日系農業協同組合中央会(1)、ひょうご産業活性化センター(1)、ラテンアメリカ協会(2)、
中南米在外公館(7)	在アルゼンチン日本国大使館(1)、在パラグアイ日本国大使館(1)、在ペルー日本国大使館(1)、在メキシコ日本国大使館(1)、在サンパウロ総領事館(1)、在サンタクルス領事事務所(1)、在エルサルバドル日本国大使館(1)
政府関係機関(38)	経済産業省(4)、国際協力銀行 (1)、JICA(7)、JETRO(13)、農林水産省(13)

3) プログラム

時間	内容	担当・発表者
8:00-8:01	開会	農林水産省輸出・国際局 宮廻上席国際交渉官
8:01-8:06	開会挨拶	農林水産省 新井農林水産審議官
8:06-8:22	1. 中南米の情勢等	
	(1)中南米の政治及び経済政策	農林水産政策研究所 林主任研究官
	(2)中南米地域における農林水産分野での取組	農林水産省輸出・国際局 吉岡参事官
	(3)中南米における日本産農林水産品・食品市場とビジネス状況	JETRO 企画部海外地域戦略班 中南米担当 佐藤様
8:22-8:55	2. 農林水産・食品分野における取組状況	
	(1)民間企業の中南米食料分野への進出展開事例	
	ブラジルでのビジネス環境及びビジネス展開	キッコーマン・ド・ブラジル 秋元副社長
	ブラジルでのビジネス環境及びビジネス展開	ブラジルヤクルト商工 根本社長
	メキシコでの抹茶販売、他の中南米諸国への展開	MATCHA KAORI JAPAN 吉宮代表取締役
8:55-9:20	(2)中南米における農業・食品分野へのサポート	ブラジルベンチャーキャピタル 中山代表
	3. 中南米での農業、日本食普及の現状	
	(1)在外公館等からの情報提供	在メキシコ日本国大使館 野本二等書記官 在アルゼンチン日本国大使館 唯野二等書記官 在サンパウロ日本国総領事館 中野副領事
9:20-9:37	(2)ジャパン・ハウス（サンパウロ）の活用事例	在サンパウロ日本国総領事館 中野副領事
	4. 現地での輸出促進、日本食普及の取組	
	(1)ブラジルでの輸出促進 日本食普及の取組	JETRO サンパウロ事務所 斎藤様
9:37-9:47	(2)日本食普及の親善大使の活動	アルゼンチン (Alejandra Kano 様)
9:47-9:52	全体質疑応答・意見交換	
9:52-10:00	閉会挨拶	GFVC 推進官民協議会副代表（株式会社前川総合研究所）篠崎代表取締役社長
	閉会	農林水産省輸出・国際局 宮廻上席国際交渉官

4) 議事要旨

開会挨拶

中南米諸国は食料調達において日本にとっての重要なパートナーであると共に、日本の農産物輸出に関しては大きな市場。一方、中南米地域は、210万人を超える日系人社会もあり、それらの方々の知見も借りながら、日本の農産物を世界に広げ、ビジネスにつなげていくよう官民で連携していきたい。

1. 中南米の情勢等

1)中南米の政治及び経済政策：農林水産政策研究所

中南米のコロナ禍での最近の経済状況、ここ数年で行われた、また行われる中南米での大統領選挙の側面から見た政治動向について発表。

2)中南米地域における農林水産分野での取組：農林水産省輸出・国際局

農林水産省が進めている日本の農林水産品・食品等の輸出促進、農産品の輸入の状況、中南米各国との協力、日系農業者との連携の取組について発表。

3)中南米における日本産農林水産品・食品市場とビジネス状況：JETRO企画部

日本産農林水産品の輸出促進のため、中南米地域、ブラジル、メキシコ、ペルー等で取り組んでいる日本酒、和牛、カレーのウの 프로모ーション活動、JETRO 在外事務所間での連携等について

の発表。

2. 農林水産・食品分野における取組状況

1)民間企業の中南米食料分野への進出展開事例

－ ブラジルでのビジネス環境及びビジネス展開：

①キッコーマン・ド・ブラジル：ブラジルでの事業の3つの柱（醤油を中心とした液体調味料、日本酒、食品類の製造・販売）について説明。現地での事業展開における工夫、努力及び課題について情報提供。

②ブラジルヤクルト商工：ヤクルトグループの世界展開の考え方、ブラジルでの事業の歴史、ブラジルでの事業の魅力と課題、ヤクルトレディによる宅配、地域密着による課題克服の取組等について説明。

－ メキシコでの抹茶販売、他の中南米諸国への展開：MATCHA KAORI JAPAN

メキシコ、ペルーでの日本産抹茶の販路拡大、普及活動と、市場での課題、国内生産者との連携等について発表。

2)中南米における農業・食品分野へのサポート：ブラジルベンチャーキャピタル

中南米に進出を検討している企業向けの現地駐在代行サービス、商品の市場調査等について発表。

3. 中南米での農業、日本食普及の現状

1)在外公館等からの情報提供：在メキシコ日本国大使館、在アルゼンチン日本国大使館、在サンパウロ日本国総領事館

各在外公館から、各国農業についての情報の提供と共に、日本食の普及状況、日本産農林水産品・食品輸出促進の取組等について発表。

2)ジャパン・ハウス（サンパウロ）の活用事例：在サンパウロ日本国総領事館

「日本」を世界へ発信するため設置された、ブラジル、サンパウロのジャパン・ハウスを活用して、これまでに実施された日本産農林水産物・食品輸出促進のための取組について発表。

4. 現地での輸出促進、日本食普及の取組

1)ブラジルでの輸出促進 日本食普及の取組：JETROサンパウロ事務所

ブラジルでJETROが実施している、日本酒、泡盛、カレー、牛肉などの日本産農林水産物・食品の輸出促進のための取組について発表。

2)日本食普及の親善大使の活動：アルゼンチン日本食普及の親善大使

アルゼンチン国内において、料理人としての立場から、本格的な日本食の知名度向上・普及のためのイベントの実施などの取組を発表。

閉会挨拶

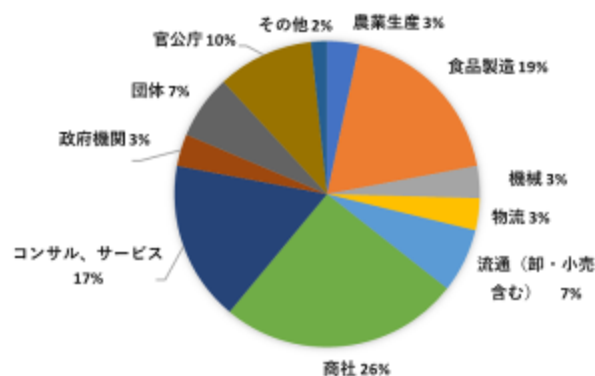
中南米は日系人が多く、日本との関係も本当に深いエリアで、ポテンシャルは高く、農林水産物の輸出の可能性が高く、食料輸入にとっても重要。中南米地域との関わりを今後ともGFVC推進官民協議会でも進めたい。

5) アンケート結果

中南米への食産業展開・輸出促進セミナー開催後、アンケートを実施した。回答は59名から得た。アンケート調査の概要を下記に示す。

■アンケート回答者の業種

業種	回答数
農業生産	2
食品製造	11
機械	2
物流	2
流通（卸・小売含む）	4
商社	15

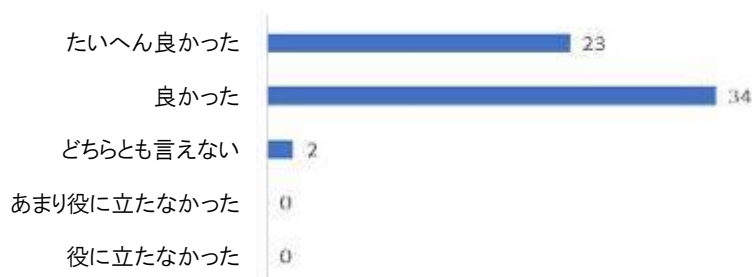


コンサル、サービス	10
政府機関	2
団体	4
官公庁	6
その他	1
合計	59

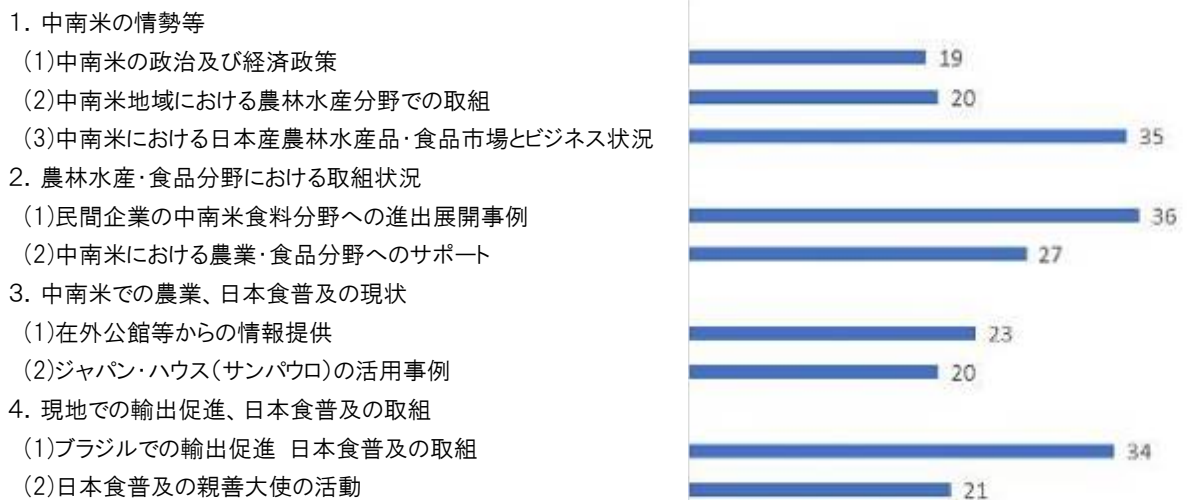
■質問 1：中南米との業務状況（回答数）

状況	回答数
現在、既に業務を行っている	41
将来、業務展開することを計画している	11
未定である	7
合計	59

■質問 2：中南米への食産業展開・輸出促進セミナー全体の感想（回答数）



■質問 3：中南米への食産業展開・輸出促進セミナーで最も興味を持ったテーマ（複数回答）



■質問 4：今後、取り上げて欲しいテーマ

- コールドチェーン
- 現地への日本食品・料理のより広範な浸透のために、官民それぞれでの、しかしバラバラではない工作体制の構築
- チリでは日本人経営のみならず、チリ人経営やチリ人シェフによるラーメン屋も多く、まさにブームです。今やスシに代わる日本食として根付いている印象を受けます。そこで各国におけるラーメンの実情やその国で受け入れられている好みの味などの中南米ラーメン事情から、ラーメンに携わる日本発輸出をしたいサプライヤーさんの話へ展開するようなテーマだと非常に興味があります。
- 牛肉など輸出の規制がかかっている商材がどうなっていくのか、現状をもっと知りたい
- 海外への地域の食文化PRにフォーカスしたセミナーも期待いたします。
- 畜産、スマート農業、スマート畜産、農業のデジタル化

- 日本発輸出を増やすためには、実際に、貿易の相手方とのマッチングが大変重要だと思います。これを紹介するようなテーマがあれば助かります。
- 一農家から、「ここに連絡すればいい」といったようなものがあれば、もっと気軽に取り組むことができ、すそ野が広がれば、結果、拡大が図れると思います。肌感覚として感じるのは、この「どこに言えばいい」という悩みをお伺いすることがとても多いです。
- 水産事例
- 成功事例の他、失敗事例についても知りたいです。
- 中南米の大国以外の国に焦点をあてたセミナー。
- 各国の現地メーカーによる日本食生産と日本製食品との競合関係。中国、韓国製の日本食製品との競合関係。
- 和食も興味があるのですが、ブラジル・アルゼンチンなどでも、和菓子が盛んなようです。
- 普及団体も多く有るようですので、実際の現地の感覚などを講演いただきたいです。サンパウロでは『ナナヤベイストーリー』という企業が活躍されているそうです。
- チリにおける養殖サーモン事業・チリにおけるオリーブオイル事情・アルゼンチンにおける牛肉飼料や飼育に関する問題点

(2) 分野別分科会

GFVC 推進官民協議会に所属するメンバー間でのテーマ別の意見交換や交流を通じ、中南米におけるビジネス創出を推進するため、少人数による分野（テーマ・国）別分科会を設置した。テーマはパラグアイにおける農業 ICT として、以下の通り開催した。

1) 基本情報

日程	令和3年4月27日（火）8:00-9:00
場所	オンライン（Zoom）
参加者	企業11名（うち日本4名、中南米7名）、大学・団体・個人14名、中南米在外公館5名（4カ国）、政府関係機関28名、中南米政府機関7名（2カ国） 計65名
内容	「パラグアイ・農業 ICT」 パラグアイ等の日系農業者等を対象に日本の農業 ICT（ソフトバンクの e-kakashi に着目して）に係るセミナーを開催し、パラグアイ日系農業者等への我が国農業 ICT 導入・活用の可能性等について意見交換を行う。 1. ソフトバンクの取組（ソフトバンク株式会社） 2. JICA のパラグアイでの取組等（JICA パラグアイ事務所）
言語	日本語・スペイン語同時通訳

2) プログラム

時間	内容	担当・発表者
8:00-8:10	開会挨拶・趣旨説明	農林水産省 国際部 櫻井 健二 国際調整官
8:10-8:30	ソフトバンクの取組 農業 IoT ソリューション “e-kakashi のご紹介”	ソフトバンク株式会社ソリューション統括部 戸上様
8:30-8:40	JICA のパラグアイでの取組 「農牧バリューチェーン強化プロジェクト」	JICA パラグアイ事務所 平井様、谷口様
8:40-8:55	質疑応答・意見交換	農林水産省 国際部 櫻井国際調整官
8:55-9:00	閉会	事務局

3) 参加者

企業(11)	Atenil 社(1)、JOM 社(1)、JRC do Brasil(1)、NEXUS 社(1)、Plastiagro 社(1)、アディルザス(1)、ソフトバンク株式会社(1)、日本無線株式会社(3)、白沢商工(1)、
大学・団体・個人(14)	イグアス農協(1)、コルメナアスンセン農協(2)、国立アスンシオン大学農学部(1)、サンフアン農協(1)、日系農業協同組合中央会(1)、パラグアイ農牧総合試験場(1)、個人(7)
中南米政府機関(7)	駐日パラグアイ大使館(2)、パラグアイ農牧省 MAG(4)、ブラジル農牧研究公社 Embrapa(1)

中南米在外公館(5)	在パラグアイ日本国大使館(2)、在ペルー日本国大使館(1)、在メキシコ日本国大使館(1)、在チリ日本国大使館(1)、
政府関係機関(28)	外務省(1)、経済産業省(3)、総務省(1)、JICA(16)、農林水産省(7)

4) 実施概況

- 本分科会は、令和3年3月3日に開催された「中南米部会 農業ICT分科会」に引き続き、穀物及び畜産が盛んであるパラグアイにフォーカスし、日本の農業ICT/スマート農業の技術、パラグアイでのバリューチェーン強化への日本の取組について情報提供、意見交換を実施。
- 本分科会は、日本のICT関係団体と中南米関係機関との将来的な勉強の場を視野に入れて開催。日本政府・政府関係機関のほか、駐日大使館、在パラグアイ日系農業関係者が参加。
- 日本の民間企業の取組としてソフトバンク、パラグアイにおける農業・牧畜バリューチェーン強化の取組としてJICAパラグアイ事務所より発表。
- パラグアイ農牧省、在パラグアイ日系関係者からも、農業ICTに情報、期待などについて発言。
- 日本の民間企業の取組としてソフトバンク、パラグアイにおける農業・牧畜バリューチェーン強化の取組としてJICAパラグアイ事務所より発表。
- パラグアイ農牧省、在パラグアイ日系関係者からも、農業ICTに情報、期待などについて発言。



分科会の様子

5) アンケート結果

分科会開催後、アンケートを実施した。回答は11名から得た。アンケート調査の概要を下記に示す。

■ アンケート調査回答数（アンケート回答団体一覧）

No	団体名	回答数
1	パラグアイ農牧省 (MAG)	3
2	パラグアイ農牧総合試験場 CETAPAR	1
3	パラグアイ日系農業協同組合中央会	1
4	日本無線株式会社/JOM S.A.	2
5	AdirzUS S.A.	1
6	白沢商工	1
7	パラグアイ民間	1
8	JRC do Brasil	1
合計		11

■ 質問1：本分科会は有益であったか

	回答数
1. たいへん有益であった	11
2. 有益であった	0
3. どちらとも言えない	0
4. あまり有益ではなかった	0
5. 有益ではなかった	0
合計	11

■質問2：分科会でどのような点が有益であったか

- パラグアイにおける JICA の新しいバリューチェーンプロジェクトに関する情報
- データ収集、分析、意思決定のための技術導入
- E-Kakashi の有用性について詳しい説明を聴くことができた
- 農業における ICT アプリケーション
- リアルタイムでデータを見る可能性、作物に何が起きているかについての警告、得られたデータに基づく意思決定による生産性の向上
- 農業生産に関する情報と技術の最新情報
- 農業における技術の使用の興味深く有益な例。多様なことを分析する方法
- プレゼンに使用された資料がわかりやすかったことに加え、パラグアイ全体の諸事情について熟知されていることから、説得力があった

■質問3：その他、コメント等

- 装置価格の低減がどの程度になるのか興味深い。ターゲットを最初から農家にしていなかったというのが面白い着眼点だと思った。
- 特に情報とタイムリーな意思決定が、農業農場で生み出される収入に大きな影響することを考えると、その実施の詳細を知ることは興味深いと思います。
- 日系人との情報交換に参加する機会をいただき、ありがとうございました。研修がほとんどないので、日本の技術協力で実際に政策に反映されるように、私たちの仕事の現実を深めていただきたいと思います。

(3) ウェビナー

GFVC 中南米部会及び分野別分科会の取組を補完し、推進するため、中南米におけるアグリ・フードテックに関するウェビナーを開催した。テーマは「中南米における食の実態調査等・中南米における日本食の普及実態調査等、及び中南米における日本食・食材に係る消費者パネル調査等」の中間報告とした。

1) 基本情報

日程	令和3年12月22日（水）9:00-10:00
場所	オンライン（Zoom）
参加者	企業20名（19社）、大学・団体等11名、中南米在外公館1名（1か国）、政府関係機関9名（農林水産省、JICA、JETRO、海外需要開拓支援機構） 計41名
内容	日本のアグリ・フードテック関連の技術・ノウハウを活用した中南米でのフードバリューチェーン（FVC）の構築や日本の食品・食材の中南米への輸出を促進する。 1. 中南米における食の実態調査・中南米における日本食の普及実態調査等 中間結果発表 2. 中南米における日本食・食材に係る消費者パネル調査等に関する告知
言語	日本語

2) 参加者

企業(20)	Ponte Pronta Pulicidade(1)、Sanatec SRL(1)、tks brasil(1)、ヴォークス・トレーディング(1)、オクトリンク(1)、神田育種農場(1)、気象工学研究所(1)、木徳神糧(1)、スカラ(1)、双日(1)、築野食品工業(1)、なんつね(1)、日本開発サービス(1)、農業サポートセンター(1)、ハウス食品グループ本社(1)、ブラジルベンチャーキャピタル(2)、ブラジル味の素(1)、松田産業(1)、メキシコ三井物産(1)
大学・団体(11)	帯広畜産大学(1)、神奈川大学(1)、全日本コメ・コメ関連食品輸出促進協議会(1)、拓殖大学(1)、東京農業大学(1)、東京商工会議所(1)、中村学園大学(1)、日本ブラジル中央協会(1)、ラテンアメリカ協会(3)
中南米在外公館(1)	在ペルー日本国大使館(1)
政府関係機関(9)	農林水産省(5)、JICA(2)、JETRO(1)、海外需要開拓支援機構(1)

3) プログラム

時間	内容	担当・発表者
9:00-9:03	開会挨拶	農林水産省輸出・国際局 宮廻上席国際交渉官
9:03-9:05	趣旨説明（調査目的と内容の説明）	事務局
9:05-9:35	発表：中南米における食の実態調査等・中南米における日本食の普及実態調査等 中間報告	中山充氏（ブラジルベンチャーキャピタル／海外進出駐在代行社 代表）
9:35-9:40	告知：中南米における日本食・食材に係る消費者パネル調査 商品募集	事務局
9:40-9:59	質疑応答・意見交換	事務局
9:59-10:00	閉会	事務局

4) 実施概況

- 本ウェビナーは、2020年11月に設置されたグローバル・フードバリューチェーン推進官民協議会の中南米部会の取組の一つ。移民による日系人が多く在住する中南米では、日本食が広く普及しており、今後の更なる輸出拡大にむけ日本食・食品の普及実態調査を実施する。具体的には、ブラジルベンチャーキャピタル／海外進出駐在代行 中山充代表による調査の中間結果発表が行われた。
- 本ウェビナーには、日本政府・政府関係機関のほか、主に商社・流通・食品分野で活躍されている企業が参加。
- 消費実態調査は、中南米市場を対象に関係者へのインタビューなどの方法で行った。中山代表は、陸続きの中南米はある程度の文化的共通基盤があり、嗜好に当てはまれば大きく広まる可能性があるとして分析した。すでに日本の醤油が日系人の家庭だけでなく広く常備されている。販売時、商品パッケージを国の言語に合わせる工夫が必要、かつ現地生産ができると価格を抑えて販売できることがわかっている。サプライチェーンが安定することでより普及が進むのではないかと示唆する。JETROの各国食文化紹介のYouTube動画なども参考に挙げた。
- 質疑応答では、「ペルーにおいては、大型モールから客足が遠のいている」との意見に対し、中山代表からは「コロナ禍でのデリバリー需要が増えていることから、新しいビジネスモデルができるのではないか」と述べられた。
- 事務局から中南米における日本食・食材に係る消費者パネル調査等に関する告知を行い、参加企業を募集した。



グローバル・フードバリューチェーン(GFVC)
推進官民協議会中南米部会
中南米における食の実態調査・中南米にお
ける日本食の普及実態調査等中間報告
2021年12月22日

©onoko3.com

**日本食・食材の消費者パネル調査
参加企業の募集**

対象国	品目種類	農産物例
1. ブラジル	1. 調味料	カレールー、味噌、醤油等
2. メキシコ	2. 菓子	洋菓子(日本メーカー製品)
3. ペルー	3. スナック類	米菓子(餅の種・せんべい類)
	4. インスタント食品	カップ麺・袋麺
	5. 保存可能食品	和食の冷凍食品等

※調査対象人数：各国10名、計30名
※嗜好及び価格(可能である場合)
※2022年1月農産物発送、2月末までに調査実施

【応募記載内容】
①企業名
②連絡先
③担当者の電話番号、メールアドレス
④参加希望の品目(1社1農産物)

【応募先】
事務局：中山代表(株) 海外展開部
〒 当：松尾、山口
電 話：03(5257)1312
メー ル：gfvc-latnamerica@konet.co.jp

→ 締め切り：2021年12月28日(火)

ウェビナーの様子

(4) 官民合同の二国間会議の開催

日本と中南米の農林水産業・食産業分野における交流・協力の強化を図るため、官民合同の「二国間会議」のための準備会合を、下記のとおり開催した。

日程	令和3年7月7日(水) 9:00-10:00
場所	オンライン (Zoom)
参加者	農林水産省 4 名、DIANA 社 (コロンビア) 2 名、在コロンビア日本国大使館 2 名
内容	1. DIANA 社の説明 2. 農林水産省の取組の説明 3. 意見交換
言語	日本語・スペイン語逐次通訳

(5) 日本の農林水産物・食品の輸出促進を図るための調査等

日本の食品・食材の中南米への輸出促進に資する観点から、①中南米における食の実態調査等及び中南米における日本食の普及実態調査等、②中南米における日本食・食材に係る消費者パネル調査等を行った。

①中南米における食の実態調査等及び中南米における日本食の普及実態調査等

現地の食生活の実態や食分野における消費者動向、現地の食品・食料の販売状況の調査を行った。また併せて、中南米における日本食や日本食文化の普及の状況等を把握するため、日本食・食材の販売店舗及び販売状況を写真等により視覚的に把握できるよう調査を行った。調査は、中南米諸国で関心の高い、ブラジル、メキシコ、ペルー、アルゼンチン、チリの5か国を対象とした。調査結果の抜粋を以下に示す。

【ブラジル】

ブラジルでの調査対象店舗：日本食材専門店



1. 調味料：日本食材専門店



【メキシコ】

メキシコでの調査対象店舗：日本食材専門店



2.菓子・ビスケット 3. スナック：日本食材専門店



【ペルー】

ペルーでの調査対象店舗：日本食材専門店



リマ市内の日本食材専門店
「スーパーニッケイ」



5. 保存可能食品：日本食材専門店



マルちゃん焼そば



納豆



チキン
ダンプリング



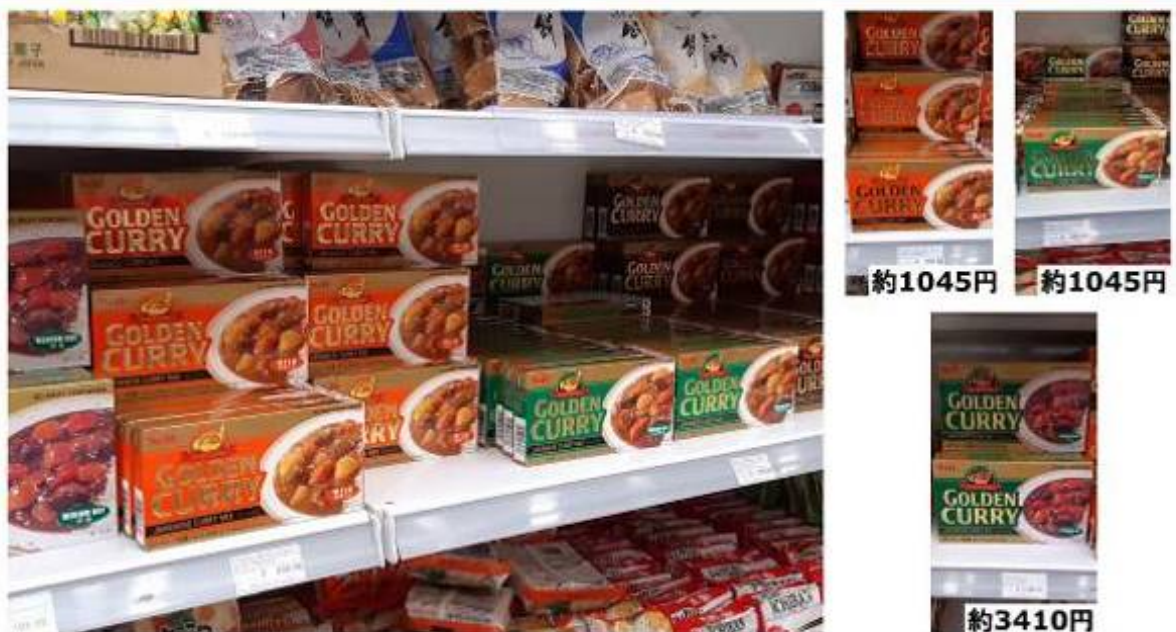
枝豆

【アルゼンチン】

アルゼンチンでの調査対象店舗：日本食材専門店



1. 調味料・カレー：日本食材専門店



【チリ】

チリでの調査対象店舗：アジア食材専門店



1. 調味料・醤油とその他のソース：アジア食材店舗

